



炎の少女チャーリー

2022年/アメリカ映画
配給：東宝東和/95分

2022 (令和4) 年6月18日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

監督：キース・トーマス
原作：スティーヴン・キング
出演：ザック・エフロン/ライアン・キーラ・アームストロング/シドニー・レモン/カートウッド・スミス/マイケル・グレイアイズ

みどころ

スティーヴン・キングの原作は、スリラー小説として興味深いものが多い。1984年に『サンタクラリータ・ダイエット』というタイトルで映画化された本作はその典型だが、そのリメイク版たる本作は如何に？

超能力といえば、かつて“スプーン曲げ”が大流行！邦題を『炎の少女チャーリー』とする本作の超能力は、パイロキネシス（念動放火）だが、それって一体ナニ？怒りを大きな助燃性とするそんな超能力を、軍事利用することができれば・・・？

そんなシリアスな物語は脚本によっては面白くなりそうだが、さて本作は・・・？



◆スティーヴン・キングのスリラー小説は傑作揃い。その中でも、『ファイアスターター』は有名で、1984年に当時“天才子役”と絶賛されていたドリュー・バリモアの主演で映画化されている。本作はそのリメイクだが、1984年版の原題は『サンタクラリータ・ダイエット』だったのに対し、本作の原題は『ファイアスターター』。そして、邦題は『炎の少女チャーリー』だ。しかし、本作は、パイロキネシス（念動放火）の超能力を持つ少女チャーリー（ライアン・キーラ・アームストロング）の過酷な逃亡劇を描くもの。しかし、そもそもパイロキネシス（念動放火）って一体ナニ？

◆超能力といえば、かつて“スプーン曲げ”が大ブームになったが、小説の世界ではどんな超能力を設定しても OK。スーパーマンやスパイダーマン、バットマンなど、いわゆるアメリカン・コミックはその典型だ。そんな主人公の物語は、子供向けでも大人向けでも、また、ハッピーものでも悲劇ものでも、自由に創作することができる。

生まれた時から子供がパイロキネシス（念動放火）という驚くべき超能力を持っている場合、まず最初に困惑するのは両親だから、本作では、まず父親アンディ（ザック・エフ

ロン)と母親ヴィッキー(シドニー・レモン)との間に生まれたチャーリーが、赤ちゃんの時に見せるその“超能力ぶり”に注目!あやうく、赤ちゃん部屋のみならず家全体が火事に!チャーリーの超能力をうまく管理できなければそんな悲劇に直結することは明らかだが、問題はそんなレベルで収まるの・・・?

◆私はもちろん原作を読んでいないが、原作はチャーリーが持つその能力を軍事利用しようとする政府機関にチャーリーとその両親が追われる、という内容らしい。すると問題は、その政府機関が正式のものか、それとも違法なものかだが、それはさて?

チャーリーにパイロキネシス(念動放火)の能力が発揮されるのは、感情のコントロールがうまくできない時、とりわけ怒りの感情が高まってくる時らしい。学校の中で、いじめっ子たちとうまく協調できない程度の怒りならまだ可愛いものだが、常にそれをコントロールしなければならない本人と両親はとにかく大変。それなのに、世の中にはそんな超能力をうまく利用すればと考える輩がいるらしい。しかも、それが軍事利用となると話は穏やかではない。なるほど、それもわかるが、その点についての本作のストーリー作りは如何に?私見では、もう少し脚本を練る必要があったのでは・・・?

2022(令和4)年6月21日記